

条例による生け垣づくりと蔵保存利活用の取り組み

Hedge Promotion and Storehouses Preservation Activities under the Town Regulation

佐藤 正彦

Satou Masahiko

1・はじめに

尾上町は青森県南津軽郡の中心に位置し、西には岩木山、東には八甲田山系に囲まれ、人口約11,000人の米とリンゴ生産を主体とする農業の町です。また、ゴザ・ほうき・植木などの行商が昔から盛んであったこともあり、植木販売業・造園業者が多く、蔵と庭園・生け垣が多い町です。このような他の市町村にない農村景観は、「農村アメニティコンクール」優秀賞受賞、「農村景観百選」、「かおり風景百選」指定の町として全国的にも高く評価されてきました。

2・条例の内容

当町は、緑の保全と創出に努め、潤いと安らぎのある町づくりのため、「ふるさと尾上町の生け垣を守り育てる条例」を平成4年に制定、8年に「青森県景観条例」の制定を受け、また、生け垣の植栽等に町単独の補助金交付制度を創設するなど、美しいまちづくりに取り組んでいます。

1) 補助金交付制度の主な内容

町内の住宅用地や事務所用地で公衆道路に面して生け垣を新しく設置する場合（5m以上）

生け垣1m当たりの設置費用の1/2の額を補助。ただし、8,000円を超える場合は4,000円を補助

- ・50cm以上の苗木を植栽。
- ・2本以上/m連続して植栽。
- ・設置後5年以上は生け垣として活用。

生け垣設置のため、ブロック塀を取り壊す場合、1m当たり5,000円まで補助。

保存生け垣として指定された場合、1m当たり年間500円を5年間補助。



管理された全長15kmの生け垣。

3・蔵保存利活用とグリーン・ツーリズム（G・T）の取り組み

蔵はステータス

農村景観を形成しているのが、蔵であり庭園・生け垣です。同町には334棟の蔵が現存し、その94%が農家所有となっています。この数字は全国的にも稀であることから大きな存在価値があります。これらの蔵は、概ね2階建てで農産物の貯蔵施設と文庫蔵の併用となっており、1階は米とりんごの貯蔵、2階は大事なものを保管する場所として活用されてきました。

現在ある蔵は143年前の文久2年（1862年）建造されたものが最も古く、以後明治から昭和時代にかけて建造されています。特に終戦後の農地改革で小作人から自作農となった農家は、農業で成功した証として蔵（当時の蔵建造費用は米百俵と言われた）を建てることを第1の目標としていました。蔵に夢を託した農家は、先を競うように蔵を建て、昭和20～30年代には建造ブームが起こり、これだけの数の蔵が建造されました。特に金屋地区に密集し、271世帯数に78棟の蔵があります。しかし、全国的にも農業の近代化と共に、蔵は、貯蔵施設から物置蔵に役目が変わるとともに年々減少、その存在は貴重なものとなっています。当町においても現在では蔵を建てさせる人（農家）建てる職人もいないことから、蔵の数は増えることはなく、徐々に減少してきました。

活動の内容

このような状況を踏まえ、蔵は後世に残すべき建造物であり、文化遺産として保存すべきと考え、地域資源の保存と活用を促進することを目的として、町内外賛同者26名で平成14年1月27日に「尾上町蔵利活用促進会」を設立し、15年8月にNPO法人の認証を受けました。設立以来、この地域資源の活用がグリーン・ツーリズム（G・T）事業展開の必須条件と考え、「蔵保存と利活用促進とグリーン・ツーリズム事業推進基盤確立と事業の定着」としてのブランド確立を指標として活動を展開しています。具体的には、蔵マップ発行、会報蔵ジャーナル発行、蔵フォーラム開催、蔵・農家庭園ウォッチング開催、農作業体験ファームステイ受入、同ウォッチングとぶどう・りんご・いちご収穫体験開催、蔵所有者懇談会・受入農家懇談会開催、古農具収集及び展示、蔵並み図画コンクール開催、地域案内人育成、蔵保存と利活用への提言、文化財指定登録調査及び登録申請、遊休農地利活用の提言、など積極的に事業活動をしてきました。

蔵保存と利活用促進、グリーン・ツーリズム事業取り組み

項 目	活動内容と実績（効果）
-----	-------------

<p>蔵保存活動</p> 	<p>蔵の合同調査（弘前大学谷口建教授・学生）：334棟が確定 蔵マップ発刊の基礎データとなる 文化財指定登録調査（八戸工業大学月舘敏栄教授・学生）：金屋地区78棟（3年計画） 昨年26棟調査の内22棟を文化財指定登録申請 補修工事推進調査：補修工事が必要な蔵50棟 5千万円の財源が必要</p>
<p>利活用活動</p> 	<p>県営垂柳・猿賀地区田園空間整備事業「蔵拠点施設」採択（20年度完成予定） 蔵・農家庭園ウォッチング開催（年6回）：ウォッチング協力体制の確立・蔵内部見学2ヶ所・庭園5ヶ所・商工会事業共催「蔵巡り・庭園巡り」実施 地域案内人講座開催（弘前大学生・高校生対象）：ガイド養成と人材発掘</p>
<p>G・T活動</p>	<p>「都市と農村共生交流」で農業・農村（地域）活性化</p>
<p>収穫体験・栽培体験</p> 	<p>蔵・農家庭園ウォッチング&収穫体験開催（イチゴ・花木・花・ぶどう・りんご） 遊休農地活用事業「サツマイモ・枝豆」栽培・収穫体験</p>
<p>修学旅行農作業体験ファームスティ</p> 	<p>「食農教育」事業の一環として、修学旅行農作業体験ファームスティ受入れのファームスティ部会組織の確立（22人 30人目標）・広域ネットワーク組織の確立（70人 80人目標） 受入農家の新たな所得確保 商工業界との連携（引率者宿泊・弁当・お土産）</p>

成果

このような活動が各社新聞に掲載され、また、NHKの「東北各駅停車」や「青森トゥデイニュース」、青森テレビ・青森放送テレビで放映されるなど、活動する都度、メディアに大きく取り上げられました。

更には、垂柳・猿賀田園空間整備事業において、蔵利活用拠点づくりが採択（事業費5千万円）、全国農業高校教科書「グリーンライフ」に掲載、青森県労働金庫主催15年度「ろうきん1億円基金」奨励賞銀賞、「第16回あおり活性化大賞」奨励賞受賞、財団法人明日の日本を創る協会主催15年度「ふるさとづくり賞」振興奨励賞、農林水産省第3回「村の伝統文化顕彰」農村振興局長賞、16年度地域振興部門総務大臣賞受賞など大きな成果に繋がっています。

また、当会が発起人となり、弘前市・岩木町・平賀町・青森市（旧浪岡町）・尾上町の2市3町と弘前地域で、グリーン・ツーリズム事業の推進のため、「広域連携：津軽ほととスティネットワーク」を15年2月に設立しました。主な活動としては、15年5月27・28日千葉県船橋市立二宮中学校3年生238名の農作業体験ファームスティを受け入れた「感動のファームスティ」の実現を契機に16年5月26・27日に同校249名、6月3・4・9・10日に小樽市立中学校190名を受け入れするなど、広域的に知られるようになり、グリーン・ツーリズム事業推進基盤の確立と事業定着化に大きな前進をみることができました。

今後の取り組み

ファームスティのための人材育成や受入れ農家の拡大、蔵利活用の拠点づくり促進、蔵補修・蔵並みの環境整備・蔵文化財指定登録調査推進及び申請、グリーン・ツーリズム事業の定着など、今後もさらに地域に密着した活動を展開し、「農家蔵の町・グリーン・ツーリズムの町」としてブランド確立を目指し、農村文化の漂うまちづくりの実現に向けて、私どもは社会的ミッションとして取り組んでいきます。